



子供たちの「学び」と「成長」を振り返って

保護者の皆様には、日頃より本校教育の推進のために、ご支援ご協力を賜り、誠にありがとうございます。早いもので季節は、晩秋から初冬への変化の中、確実に大気は一朝ごとにその冷たさを増してきています。

さて、残暑厳しい中でスタートした夏休み明けの学校生活。美乃浜っ子は暑さにも負けず充実した日々を送ることができました。その「学び」と「成長」を振り返ってみます。

夏休み後のメイン行事は、やはりクラスの絆を深めた美輝祭合唱コンクールです。全校児童生徒が一堂に会しての開催で大いに盛り上がりました。クラス発表や合唱コンクールで最も大切なことは、各クラスの学級づくりの成果としての合唱や学習発表を互いに聴き合うこと、とりわけ下級生が9年生の合唱を聴いて学ぶことです。9年生の歌声と態度を生で聴いて、見て、下級生が学ぶものの大きさは計り知れません。クラスの絆とは、仲間を大切にするとはどういうことか、9年生は美しく力強い歌声を通して堂々と示してくれました。

そして、9年生から7・8年生へと引き継がれた部活動。中学校における部活動は、小学校の縦割り活動のような側面があり、下級生に優しく教え慕われ感謝されることで上級生も人間的な成長を遂げていきます。かけがえのない成長の場なのです。朝、正門前で登校してくる生徒を迎えていて、変化に気付くことがあります。それは、このような行事や部活動の大会を経験するごとに、自分から挨拶してくれる生徒が増えることです。それはなぜか。一つ一つの経験を通して、自分の心の中に少しずつ自信が育つからかもしれません。そんな小さな自信を育てているのが毎日の学校生活なのです。子供たちの成長に必要な不可欠な仲間と過ごす時間と活動。これからも、子供たちの「学び」と「成長」を保障できる美乃浜学園でありたいと願っています。

(校長 中原 悟)

地域とつながる学校へ ～地区文化祭に参加してきました～

今年度は、地域行事「美乃浜学区しおさい祭り」では4年代表児童が「校歌」と手話「Believe」を、「阿中学区コミュニティ文化祭」では、5年代表児童が「校歌」「Tomorrow」の合唱をステージで披露しました。子供らしくのびのびとした歌声を響かせ、子供たちの表情にも満足した様子がうかがえました。

また5年生は両日とも屋外テントで駄菓子屋の模擬店で参加しました。この活動は、総合的な学習の時間の「駄菓子屋チャレンジ」という学習として、仕入れから販売まで、すべて自分たちで行うことにチャレンジしました。売れるためには、利益を出すためには、と、それぞれが創意工夫を凝らし、正午前にすべての商品を売り切ることができました。「阿中学区コミュニティ文化祭」では、大きな声でお客さんに呼びかけたり、陳列を工夫したりして、前回の「しおさいまつり」での経験を生かしていました。無事すべての商品を売り切ることができ、子供たちも満足していました。今後も地域とのつながりを大切にしていきたいと思えます。



11/10 (日) 美乃浜学区しおさいまつり

11/17 (日) 阿中学区コミュニティ文化祭

〈薄井様より菊の寄贈〉

11/28(木)持久走大会 (前期課程)

天候に恵まれ、青空の下、たくさんの保護者や地域の方々が見守る中、子供たちは、美乃浜学園グラウンドを元気いっぱい走り切りました。沿道での声援に俄然やる気を見せて走る姿、ゴールを目指して黙々と走る姿、ラストスパートを見せる姿など、一人一人が目標に向かって頑張ることができました。当日の児童看護でご協力いただいた保護者の皆様、ありがとうございました。



12/1(日)三浜駅伝 (後期課程)

地元開催の大会を盛り上げるべく、今年も各部活動から合計7チームがエントリー。朝早くから那珂湊漁港に集合し、雲一つない快晴の中、最後まで粘り強く走り抜けました。走り終えた生徒は、さわやかな笑顔を見せ、チームの仲間たちと共にやり遂げた喜びを分かち合っていました。



11/23(土)キャンドルナイト開催！

11月23日(土)ひたちなか市チャレンジキッズコンテストに応募した6年生の企画による「キャンドルナイト」が開催されました。昨年度入賞した企画をもとに、今年度は更に練り上げて、様々な企画・準備を行い、地域の活性化、美乃浜の魅力発信に向けて取り組んできました。

当日の会場では、親子学習会や総合的な学習の時間で、給食の廃油を活用して子供たちが手作りしたカラフルなキャンドルを、平磯海岸のシンボル「くじらの大ちゃん」の形に配置して灯しました。また、地域産業とのコラボ企画も実現！お菓子工房 Karin 様とのコラボ企画で紅はるかを使用した「みのいもクッキー」や、地元のバインベリー農家・小池様のいちごを使用した「みらくるいちごみるく」の販売も行いました。他にも、海の素晴らしさを伝える「プロジェクション水族館」や、「東日本大震災」を考えるデジタル紙芝居、地域のよさを再発見する「お月見泥棒」や「ひたちなかカードゲーム」、「イバラキ缶バッジ」等、様々な企画を実践し、大成功を収めることができました。

これだけの大きなイベントを達成できたのは、子供たちのアイデアや企画力はもちろんのこと、川崎KIDS基金の皆様、賛同していただいた企業の皆様、保護者の皆様のおかげです。今後とも、地域とともに育つ子供たちのために、ご協力お願いいたします。



11/15(金)学校運営協議会を通して

本校の学校運営協議会は、地域の方9名と本校職員5名で構成されています。今年度第2回学校運営協議会では、7名の学校運営協議会員の方に各教室の授業の様子を参観していただいた後、「あいさつができる学校・地域にするには」というテーマで、グループ協議を行いました。子供たちは、教室や校内でよく知っている人にはあいさつができますが、校外や地域に出ると、消極的になってしまい、なかなか自分から大きな声であいさつすることができないようです。そこで、協議の中では、「まず家庭や地域の大人からどンドン声をかけていくこと」「地域の活動に積極的に参加をして、地域の子供と大人が顔見知りになること」「家庭の中で『いってらっしゃい』『おかえりなさい』の声かけを大切にすること」「あいさつのスローガンや『あいさつデー』の設定等、学校・地域で共有すること」などが話し合われました。ぜひ、気持ちのよい素敵なあいさつができる学校・地域にしていけるよう、学校や家庭でできることから取り組んでいけたらと思っています。